

院長	副院長	副院長	事務部長	看護部長	主査

第 66 回 地域協議会（地域医療支援委員会）概要

【日 時】 令和 6 年 2 月 19 日（月）

【場 所】 人吉医療センター第 2 会議室、オンライン

【出席者】 友永 和宏（人吉市医師会会長）

高森 啓史（公的病院企業長）

近藤 浩之（球磨郡医師会理事）

瀬戸 弘（人吉市歯科医師会）

山村 礼二（球磨郡歯科医師会）

河内 謙介（西諸医師会理事）

村田 圭介（人吉球磨薬剤師会会長）

服部 希世子（熊本県人吉保健所）

寺岡 公美（伊佐市保健課長）

井手平 慎一（えびの市健康保険課長）

淵田 尚史（人吉市教育委員会）

下川 恭弘（人吉医療センター副院長）

渡辺 朋子（人吉医療センター看護部部長）

中川 貴夫（人吉医療センター総務企画課）

久保田 智子（人吉医療センター診療情報管理室）

山田 一裕（人吉医療センター医療福祉連携室）

高橋 薫子（人吉医療センター医療福祉連携室）

【欠席者】 寺田 歩（伊佐市医師会理事）

淵上 麻美（人吉市役所健康福祉部長）

石神 哲郎（人吉医療センター歯科口腔外科センター長）

作元 功（人吉医療センター事務部部長）

（敬称略 計 21 名）

【概要】

一、開会（事務局）

二、議長挨拶

三、議題

①登録医承認

新規登録：5 名

登録削除：7 名

登録医総数：242 名

②【当院の入院患者における紹介状況】、【地域医療構想等の最新情報】

【当院の入院患者における紹介状況】

- ・当院の入院患者の約半数が紹介による入院
- ・紹介による緊急入院率は2016～2018年は53～57%であったが、2020～2022年は48%～57%と近年減少傾向
- ・入院経路割合は2016～2018年では施設・他病院からの転院による入院は全体の16%であったが、2020～2022年では19%と増加傾向
- ・医療圏別患者数は、全体の約16%が宮崎・鹿児島患者
- ・医療圏別で紹介数を見てみると、鹿児島は2016～2018年と比較し2020～2022年は14%減少。宮崎は同じ期間の紹介数は50%減少。
- ・入院患者の退院先（2020～2022年）は在宅 73.6%、転院 18.9%、死亡 4.8%、施設 2.6%
- ・転院患者の年齢分布（2020～2022年）は65歳以上が全体の88%
- ・大腿骨骨折や脳血管障害等、当院で急性期治療後は転院という流れが確立しており、地域連携が図られている
- ・疾患別平均在院日数は、DPC対象病院の平均在院に数と比較すると、肺炎や尿路感染症患者は在院日数が長期化している

【地域医療構想等の最新情報】

- ・地域差はあるが2040年までに高齢者増加はピークを迎えるが、働き手の確保はその後も続く。地方は都市部よりも早く多死社会が進むとされている。
- ・4月より医師の働き方改革が始まり、大学からの派遣が厳しくなる可能性も。
- ・2025年度を目途とした地域医療構想1.0は「少子高齢化社会による限られた医療資源の中で、地域のニーズに合った過不足のない医療を提供する」ことが目的とされていた。一定の効果はおさめつつも検討不足事項や時代にそぐわない部分も明らかとなった。
- ・地域医療構想1.0を踏まえ地域医療構想2.0は、2040年を目途とし激減する生産年齢人口の制約下で、急性期から慢性期・在宅・介護との連携まで視野に入れたものとなる。これを実現するためには、特に急性期は医療機能と医療者の集約を行わなければ地域そのものが立ち行かなくなってしまう。立ち位置、地域でのバランスを考え、地域の中で機能分化を図る必要がある。

下川議員：西諸地域の紹介数が減少していることについて、なにか要因など考えられるものがあるか。

河内議員：自院からの紹介数が減少しているという感覚はあまりない。他院が病院からクリニックへ変わった影響もあるのか。参考となる資料をもらいたい。

久保田議員：あくまでも紹介で入院に繋がった患者数ではあるが、全体的に紹介数は減少している。コロナウイルス感染症の影響もあったのではと考えている。データをまとめ情報提供を行う。

服部議員：在宅医療や介護連携に関連する会議を行っていたがコロナウイルス感染症の蔓延に伴い、開催できていなかったが、今後開催を行っていく予定となっている。